

6月24日のウクライナ情報

安齋育郎

① 【Russia News】6/19 時事ネタ水曜版です(ニキータ、2024年6月19日)

<https://youtu.be/ndfsDBO57nw>



<https://www.youtube.com/watch?v=ndfsDBO57nw>

② 対ロシア強硬派のオランダのマルク・ルッテ首相が、NATO の次期事務総長になる可能性が浮上【石川雅一の YOUTUBE シュタインバッハ大学】(2024年6月20日)

「シュタインバッハ: Steinbach」とは、ドイツ語で「石川」のことです。YOUTUBE 上だけに存在するバーチャルな University です。ホストである石川雅一は日本放送協会(NHK)の記者報道カメラマンとして世界 20 か国取材し、クアラルンプールにある国際機関: Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development(AIBD)でアジア各国のディレクターやジャーナリストを強化育成してきた国際報道ジャーナリストです。MBA ホルダー(早稲田大学大学院商学研究科)でもあり、金融市場分析 テクニカルアナリスト CFTe II でもありますので、広い視野から国際時事問題を解説させていただきます。拝

【石川雅一プロフィール】 東証ペンクラブ会員、学校法人評議員。日本放送協会(NHK)の記者報道カメラマンとして米国・中東・アジアの 20 か国、アフガニスタン内戦、インド、カシミール内戦、スリランカ、ミャンマー、アメリカ海軍、アメリカ航空宇宙局(NASA)、ロシアラモス国立研究所、国連安全保障理事会、米国銃乱射事件などを取材。クアラルンプールにある国際機関の講師としてアジア各国の放送局のジャーナリストやディレクターたちを養成。MBA。テクニカルアナリスト:CFTe II。早稲田大学大学院商学研究科修了。「学科長賞」受賞。早稲田大学大学院博士後期課程中退。一級小型船舶操縦士、剣道初段、趣味は能楽。

<https://youtu.be/6knOlcgHeMc>



<https://www.youtube.com/watch?v=6knOlcgHeMc>

③「ベトナム は米国の批判を無視し、関係強化のためにプーチン大統領を受け入れた」(Sputnik, 2024 年 6 月 20 日)

ブルームバーグが プーチン大統領 のベトナム訪問について、このように報じている。

同紙が指摘しているように、ベトナムはロシアに対し、エネルギーや武器を含むあらゆる分野での「戦略的保護」と支援を見出しており、在ベトナム米国大使館からの反対にもかかわらず、プーチン大統領の訪問が行われている。

「ベトナムは、米国の否定的な反応に直面しながらも、数十年にわたるロシアとの関係を強調している」

また、ベトナムは、ウクライナにおける特別軍事作戦の開始後、ロシア非難に加わらず、中立の立場をとり、紛争の外交的解決を求めた東南アジア諸国の一つとなったとも指摘されている。

プーチン大統領は北朝鮮への訪問を終え、日本時間 20 日未明にベトナムに到着した。プーチン大統領は最高指導者であるグエン・フー・チョン共産党書記長ら会談し、ロシアとベトナムの包括的戦略パートナーシップに関するあらゆる問題について協議が行われる予定。



https://x.com/sputnik_jp/status/1803606365228900538?s=09

④アメリカ、中国、フィリピン、ウクライナスコット・リッター、(2024 年 6 月 20 日)

スコット・リッター「アメリカは中国と戦って勝つことはできない。しかし、我々はフィリピンを使って中国との潜在的な衝突の条件を作り出している。フィリピンの人々にとって、これは災いのもとだ。アメリカが友人だと思うのか？ウクライナの人々もそうだった」

<https://x.com/i/status/1803500858656825589>



<https://x.com/AmbraBeni/status/1803507471916605832?s=09>

⑤ ダグラス・マクレガーのウクライナ戦争観(2024年6月20日)

原口一博議員と仲良しな、ダグラス・マクレガー大佐はウクライナ紛争はグローバリストのエリートがウクライナの資源を搾取し、ロシアを弱体化させるために起こしていると主張しています。彼は西側諸国、特にアメリカとヨーロッパの諸国がロシアの強さを過小評価し、その安全保障上の懸念を無視してきたことが、現在の深刻な紛争を引き起こし、地域的または世界的に核戦争の拡大する可能性があるとして述べています。バイデン政権が状況の重大さを理解しておらず、NATOのウクライナへの軍事介入を決定した事を批判しています。

<https://x.com/i/status/1803559257251651690>



<https://x.com/w2skwn3/status/1803559257251651690?s=09>

⑥ 最も重要な段階、我々はこの戦争に負けている。ウクライナ軍第3突撃旅団の司令官は、次のように述べている(2024年6月19日)

<https://x.com/i/status/1803409314591416759>



ここ2年半の戦争で最も重要な段階だ。特に、社会が弛緩しており、勝利という共通の考えによって団結していないからだ、とクハルチュクはUPのインタビューで語った。

■「我々は今、この戦争に負けている。それは明らかだ。領土を失い、優秀な人材を失っている。もし結論が出されず、過ちに対して何も取り組まなければ、我々はこの戦争に負けるだろう」。

■「残念ながら、この結果は、変化がなければ事態は悪化する一方であることを示している」とクハルチュク氏。

■ また彼は、多くの人がロシアと平和条約を締結できると言っているが、一番の疑問は、(キエフがすでに負けているのに)なぜモスクワが平和条約を必要とするのかということだ、と指摘した。

■ ハリコフ方面への攻勢について、彼は来月中旬にハリコフへの脅威はないが、半年後には脅威があると考えている。

■ クハルチュクは また、アヴディフカでの戦闘の激しさは戦争史上最高であると強調した。

<https://x.com/Z58633894/status/1803409314591416759?s=09>

⑦ロシアと北朝鮮の接近は合理的＝中国人専門家ら(Sputnik, 2024月6月20日)



中国紙「グローバルタイムズ(環球時報)」は中国の専門家らの話として、ロシアと北朝鮮の協力強化は正しい決断だったと報じている。

「中国のアナリストらによれば、ロシアと北朝鮮の接近は『合理的な選択』である。なぜなら、両国を孤立させ抑圧するという米国とその同盟国の長年の戦略は、欧州であれ北東アジアであれ、米国主導の同盟国による共通の脅威と戦うために、両国が協力するよう自ずと後押しするためだ」

専門家らは、露朝の協力は米政府で意思決定を行う人々にとって頭痛の種となることは間違いないと指摘している。

プーチン大統領は 18～19 日にかけて 24 年ぶりに北朝鮮を訪問。金正恩総書記と会談を行い、包括的戦略パートナーシップ条約に署名した。

https://sputniknews.jp/20240620/18665452.html?rcmd_alg=collaboration2

⑧アメリカはなぜウクライナ戦争の平和交渉を手伝わないのか？(2024年6月20日)

※安斎注:ジェフリー・サックスの極めて重要な分かりやすい資料です。必見。

<https://youtu.be/MdxUSauFZ6Y>

だから、ウクライナのミッションは、NATO がこのような武器の調整移転拠点を設けることを意味する。

もうひとつは、NATO 加盟国がウクライナの軍事的努力を支援するために資金を提供することである。

そして 3 つ目は、ウクライナの兵士を訓練することである。

これが自国の領土で行われるのか、ウクライナの領土で行われるのかについては議論があるが、要は、前線に行くウクライナ兵の訓練に直接関わるということだ。

ハンガリーはこれに参加したくない。

この問題は解決しなければならない。

もちろん、我々には大きな圧力がかかっている。

31 カ国の加盟国が、平和の側から戦争の側に回るよう圧力をかけている。」

そして、彼だけではない。セルビアのヴチッチ大統領も同じことを言っている。ロシアとの戦争はあと 3 カ月で始まるだろう、と。つまり、本格的な戦争まで 3 カ月ということだ。これは NATO が望んでいることのようにあり、NATO はこれを手に入れているようだ。

元 CIA 諜報部員のラリー・ジョンソンに聞いてみよう。彼はこの件に関して申し分のない情報源を持っている。ラリーの諜報活動の視点からの評価と、戦争に向かって急加速しているように見える今、裏ルートで何が起きているのかを聞いたかったのだ。

ラリー、番組によろこそ。会えて嬉しいよ。

先日、プーチンが和平提案を出したが、NATO は即座にそれを踏みにじった。いや、我々はこの土地を返すつもりはない。こんなことはあり得ない。NATO の観点からは、ロシアが降伏することが唯一の解決策であるように見えるが、それは実現しないだろう。では、第三次世界大戦を防ぐために、あるいは本格的な世界大戦に向かうために、裏ルートで今何が起きていると思う？

最後の質問に関しては、そうだ。プーチンは西側諸国とポーカーゲームをしているが、西側諸国はカードを持っていないことに気づいていない。22 年 3 月に行われた交渉を振り返ってみると、その時点ではプーチンはルガンスクとドネツクをウクライナ国内に留めることを望んでいた。当時はそうだった。あなたが正しく指摘したように、西側諸国はそれを全て台無しにし、ゼレンスキーに手を引くように言った。彼がそうしたせいでその取引は成立しなかった。そして今、我々はこの状況にある。プーチンは新たな取引をテーブルに載せた。ドネツク、ルガンスク、ヘルソン、ザポリージャも残す。それ以外はすべて自由だと。

そのリストになかったものに注目してほしい：オデッサだ。

つまり、プーチンはオデッサを残すことで、西側諸国とウクライナにウクライナの何かを救う動機を与えたのだ。そして西側諸国は再び何をしたのか？

あなたが言ったように、すべてを台無しにした。彼らはこの機会を逃した。

次はオデッサとキエフだ。

だから、ロシアは準備している。彼らは NATO と戦争していることを認識している。彼らはウクライナとだけ戦っているのではない。プーチンは先週、外務省で演説した際、そのことをはっきりと明言した。

私は 1 週間半前、サンクトペテルブルク国際経済フォーラムのためにロシアにいたが、その週の月曜

日、6月4日か3日だったと思うが、プーチン大統領、ラブロフ外相、リャブコフ外務副大臣の発言に決定的な変化があった。彼らは、西側諸国は火遊びをしているのであり、ロシアは黙って殴られ屋になるつもりはないとはっきり言っていた。

それが彼らの結論だった。だから、西側諸国が何をやるか、それ次第なのだ。

ロシアは戦争をする準備ができています。

そしてここに本当の問題がある。西側諸国は妄想を抱いている。感覚がずれている。自分達のプロパガンダを信じ、ロシアは弱く、ロシアが持ちこたえているのは中国のおかげだと思い込んでいる。西側がやりたいことは中国を攻撃することだと、今日まさに NATO のトップであるイエンス・ストルテンベルグが言ったのを見た。彼らは中国と戦いたいのだ。

この連中は、まるで酒場の酔っぱらいのように制御不能で、誰とでも戦いたがっていて、酒場の酔っぱらいのようにパンチを繰り出すこともできない。本当に不愉快だ。

そして、オルバーン・ヴィクトルはその一員になりたくない。ハンガリーのオルバン首相は、NATO の立場から言われたことをそのまま述べている。つまり、NATO 加盟国が、NATO の拡張を望み、3つの基地を追加し、ロシアとの本格的な戦争を望んでいる。

つまり、こんなことは今まで見たことがない。

スロバキアも同じことを言っているし、トルコも先週、「BRICS の一員になりたい。我々はヨーロッパ勢にこき使われるのにうんざりしている。我々は 25 年もの間、EU に入ろうとしてきたが、EU はただ見ているだけだった。そして今、トルコは BRICS に加盟すると言った。

そしてトルコは NATO の他の国々に、「もしロシアと戦争になったら、俺たちを仲間外れに(除外)しろ」と言った。

なぜそれが重要なのか？トルコは NATO で 2 番目に大きな軍事力を代表している。

トルコがいなければ、NATO は空っぽだ。なぜなら、現在米軍の全兵力は 45 万 5000 人で、これは世界中をカバーしているからだ。ロシア軍は 130 万人だ。

通常、防衛側の敵に対して攻撃的な行動を取ろうとする軍隊は、この場合、ロシアが防衛側の軍隊となるが、3 対 1 のアドバンテージが必要だ。

計算してみよう。彼らは 130 万人だ。ということは、400 万人くらいで行った方がいいということだ。彼らはアメリカでのリクルート目標を達成することさえできない。昨年は 7 万人という目標を掲げていたが、達成できなかった。今年は 55,000 人に引き下げたから、「目標を達成したぞ」と言っているんだ。

なるほど、これが彼らのやり方か。そう、こうやっていつも自分に嘘をついていて、自分に嘘をついていることに気づかないのは、問題が起きている証拠だ。

そしてもちろん、下院が 18 歳から 26 歳までの兵役義務者を、全国的な徴兵制の一環として選択的兵役に強制登録する動きを進めていることもわかった。これは本当に恐ろしいことだ。セルビアのヴチッチ大統領も、あと 3 カ月で戦争になると言っている。諜報機関を通じてであろうとなかろうと、彼らはこの情報を知っている。つまり、ヴチッチ大統領が 3 カ月後にロシアと戦争になる、あるいは NATO がロシアと戦争になるというようなことを言っているのを聞いて諜報筋は警鐘を鳴らしたのか、あるいは何か確認できたのか、否定したのか、ということだ。

レトリックの観点から言えば、オルバンの発言だけでなく、ストルテンベルグの発言や議会のメンバ

一の発言も含めて、我々はそういう方向に向かっていると思う。しかし、このような話の背後にある問題がある。タフな話や大げさなことを言うのは簡単だが、その裏付けを整えなければならないということだ。

米軍では、JOPES (Joint Operation Planning and Execution System: 統合作戦計画実行システム)、TIPFDD (Time-Phased Force and Deployment Data: タイムフェイズ導入計画及び部隊展開データ) と呼ばれるものがある。TIPFDD とは、部隊に「配備するぞ」と通達し始め、部隊は警告を受け、警戒命令を受け、そして配備命令を受けるといったものだ。それには時間がかかる。例えば、湾岸戦争や 2003 年のイラク戦争では、このプロセスはすべて 1 年後に開始された。

TIPFDD が始動したとか、部隊を動かし始めたという話は聞いたことがない。

しかし、仮にそうだとした場合、部隊をどこから調達するつもりなのだろうか？

米軍の兵力は 45 万 5 千人で、世界中をカバーしている。ロシア軍は 130 万人だ。通常、防衛軍に対して攻勢に出る軍隊は、3 対 1 のアドバンテージが必要だ。130 万人だと約 400 万人の兵力が必要だが、アメリカでは募集目標すら達成できない。去年は 7 万人を目指したが達成できなかった。今年は 5 万 5 千人に目標を引き下げ、それを達成しようとしている。

これは、彼らが自分達に嘘をついていることを示している。

さらに下院は、徴兵の可能性があるため、18 歳から 26 歳までの男性軍人を選択的兵役に登録することを義務づけている。これは本当に恐ろしいことだ。セルビアのヴチッチ大統領は、あと 3 カ月もすれば戦争に突入すると語った。ヴチッチが 3 カ月と言え、警鐘が鳴る。

オルバンに限らず、彼らのレトリックや発言から、この状況は懸念される。厳しい口調は行動で裏打ちされなければならないが、今のところそれは実現していない。NATO 加盟国はウクライナへの貢献を約束しましたが、まだ資金を提供していない。

レトリックは脅威としての中国にシフトしているが、彼らはイエメンのフーシ派に対処することさえできない。アメリカと NATO は、現実から切り離された退廃的な麻薬中毒者のようだ。特に選挙の年には、アメリカの行動力は極めて限られている。

若い人達は、特に中国と戦うという見通しをもって、入隊や徴兵を望むだろうか？ おそらくそうではないだろう。彼らはどうやってそこに行くのだろうか？

アメリカの艦船や空母は中国の極超音速ミサイルに弱い。これは子供の頃に NBA でプレーすると考えるようなもので、現実的ではない。

ヴチッチが 3 カ月のカウントダウンについて正しいのか、それともオルバーンが NATO の基地拡大について正しく、ロシアとの熱い戦争を望んでいるのか、いずれ分かるだろう。2024 年の選挙が近づくとつれ、これらすべてを注視していきたい。

ラリー、あなたはとても忙しくなるだろう。

本当にありがとう。また近いうちにお会いできることを楽しみにしている。

ありがとう。

<https://x.com/kazuchancocone/status/1803541413382259095?s=09>